

先日、家内の親孝行をも兼ねて、旭川時代以来一度は如何なるものかを見たいと思っていた「ばんえい競馬」を見学し、正に人馬一体となった北のロマン、道産子馬の迫力あるパワフルな競走と騎手の駆け引きの一端を垣間見て感動した。サラブレッドのような華麗さは期待すべくもなかったが・・・。因みに入場料は大人100円なり。

#### ばんえい競馬について

1. 全長200m、ばんえい重量（騎手重量と負担重量の計）が最高のクラスでは、1トンにもなるか という重量物を載せた鉄櫓を途中2箇所（高さ1mの第一障害と高さ1.5mの第二障害）のある直線コースで競うものであり、現在では、北海道の旭川、帯広、北見、岩見沢で、市営競馬として行われている。
2. 馬は、輓馬と呼ばれる農耕馬であるので、平地競馬のサラブレッドと違い、体格も大きく、特にその脚は、太く逞しい、体重は時には1トンにもなる。この輓馬、純粋の道産子馬ではなく、外国産の馬がルーツとなっており、混血種が主流であるとの事である。
3. ばんえい競馬は、当初は、馬の価値や力を試すための競走であったが、明治の終わり頃から、櫓に荷重をかけて引かせる方法が取り入れられ、北海道の農民の「お祭り競馬」として楽しまれていたものである。公営になったのは、戦後のことで、食糧増産と馬産振興という目的であった。北海道と青森で行われた。併し、順調ではなく、休催にもなったことがある。次第に受け入れられるようになり、ばんえい競馬は市が行うと言う方式が確立して以降は、人気上昇した。
4. 平地競馬と違い、ばんえい競馬は、櫓の後端がゴールラインを通過したときに決定する。鼻の差で負けたと言う表現はばんえい競馬にはないようだ。この後端で順位を決定すると言う方式は輓馬の競争としては当然であるいが、審判がことのほか難しく、八百長も起きたようであるが、現在ではVTR判定でそのようなトラブルはないようだ。
5. 開催地が帯広を始めとする4箇所であるため、馬、調教師・騎手、その家族、厩務員等の競馬関係者は、開催競馬場を転々とする。人馬の大移動だ。
6. 数倍の狭き関門：どんな輓馬でもバンエイ競走馬になれる訳ではない。能力検査と呼ばれる厳しい試験に合格しなければならない。運悪く不合格の馬は哀れなるかな。いずれ市中に出回り、グルメが舌なめずりしよう。
7. 見所は矢張り第二の障害通過であろう。第一の障害はスタートダッシュから一気に駆け上がることが出来るが、第二障害はそうはいかない。全ての馬が障害の手前で立ち止まり、騎手と馬が気も心も完全に同化したその一瞬を待つ。その時の来るや、人馬は限界を超えるのだ。

(参考：<http://www.banei-keiba.or.jp/>)

#### 第二障害を越える必死の馬達

